



六甲カトリック教会 教会報

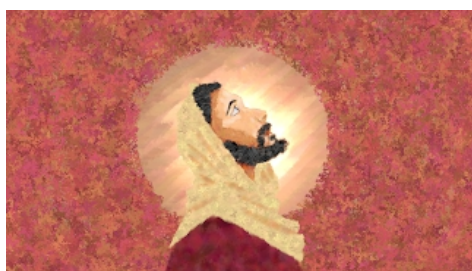


神のみ旨を求めながら

主任司祭 英 隆一朗, s.j.

寒くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。私自身、六甲教会に来て、半年以上が過ぎ、少しずつ慣れてきました。

六甲教会の活動を拝見していると、さまざまな活動があり、とても充実しているように見えます。特に、11月のチャリティーバザーは3年ぶりということでしたが、盛況のうちに終えることができ、大きななぐさめを覚えました。コロナの感染症蔓延が3年目でありながらも、さまざまな活動が再開されて、この教会の本来の姿が戻ってきているようで、とてもうれしいです。



ところで、前回紹介したように、世界のイエズス会全体で、使徒職の方向性(UAPs)を定め、10年間、これを意識しながら歩んでいこうと呼びかけられています。六甲教会もイエズス会の教会ですから、このUAPsを大切にしていきたいです。

第1の柱は、「霊操および識別を通して、神への道を示すこと」です。『霊操』とは、イエズス会の創立者聖イグナチオ・ロヨ

ラが書いた本です。彼は回心後、洞窟で隠遁生活をしながら、自ら深い霊的な体験をしました(教会報7月号に、中村神父の解説あり)。その霊的体験を他の人びとも体験できるように、指南書として『霊操』という本を執筆しました。この本を通して、イエズス会員のみならず、多くの信者が神との交わりを深めることができるようになりました。その本の中には、私たちが霊的生活を深める上で、今も役に立つ黙想やエクササイズの方法が記されています。

「識別」とは、霊操に出てくる最も重要なエクササイズです。私たちは、日常生活で何が神のみ旨か迷うことがあるでしょう。例えば、この仕事を続けるべきか辞めるべきか、目の前に現れた新しい道にチャレンジするか、諦めるか。神は本当のところ、どちらを望んでおられるでしょうか。神の望みを識別し、それを選ぶことができるならば、信者として、真に満足できる人生を歩めると言えるでしょう。

この霊的識別はある程度の訓練が必要です。皆さんの一人ひとりが、そのようなセンスを習得してほしいと願っています。春と秋の黙想会を中心にして、学びの機会を作っていきたいです。また、来年度は共同識別(皆で共同に識別すること)の機会も作ってみたいです。寒くなるにつれ、カゼの流行とコロナウイルスの感染拡大が懸念されます。今のところ、クリスマスまで教会活動のあり方に制限を加えるつもりはありません。各自が感染症対策を心がけながら、おん子イエスの誕生を迎える心の準備をしていきましょう。

11月ミサ点景



11月から主日のミサの時間帯が変わりました。10時は9時に、11時半は11時になり、地区別の制限もなくなりました。聖堂の座席のテーブル仕切りも取り払われ、ひとつ置きに座れるようになっていきます。また、ミサ中答唱詩編は答唱部分を会衆が歌うことに戻りました。

・1日は諸聖人のミサ、2日は死者のためのミサと、11月の冒頭にミサが続きました。死者のためのミサは、バツハ「主、イエスキリスト、われらここに集いて」のオルガン前奏で厳かにはじまり、この一年に亡くなられた33名の方のお名前が読み上げられ、改めて思いを馳せることが出来ました。ミサの始まった直後に、兵庫県災害緊急アラーム（訓練）が鳴るハプニングがありましたが、とどこおりなくミサは続けられました。



・手話ミサは第1日曜日の6日に行われ、今後第1日曜日に定例化していくことになります。20日の11時ミサでは七五三の祝福式が行われました。



・そしていよいよ待降節を迎え、27日の第一主日から新しいミサ式文が採用されました。戸惑いながらも新しい聖歌や式文に徐々になじんでいくことでしょう。

・また、葬儀ミサも11月から全信徒にお知らせするのを原則とするようになりました。コロナの影響でいままで聖歌隊のみの参列になっていました。ミサへの制限事項が減っていくのは喜ばしいことです。でも、マスクだけはなかなか外すのが難しいのが現状のようです。（イラストはニティン神学生のブログから）

※降誕祭ミサの詳細(時間割、整理券など)については、週報をご覧ください。

ミサ後、聞こえない人と交流しませんか？

毎月第1日曜日の「手話ミサ」には、六甲教会の聞こえない信者だけでなく、教区内の教会からも聞こえない人たちが来ています。ある人の「ミサが終わった後、聞こえる人たちは何人かで集まってお話をしているけど、わたしたちも、あんなふうに話がしたい。」との思いを受けて、イグナチオ喫茶でおしゃべりしませんか。「手話ができないから無理！無理！」いえいえ、聞こえない人とのコミュニケーションの方法は色々あります。手話以外にも、①口話(こうわ)②筆談 ③スマホに文字を打つ ④ジェスチャー等。通訳もします。ホワイトボードの準備もあります。そばで、暖かく見守って下さっている主もおられます。きっと…。(磯部和子)

七五三祝福式

11月20日(日)11時のミサで、七五三の祝福が行われました。この日、晴れ着に身を包んだ五人のこどもたちが、英神父さまからオメダイと千歳飴をいただきました。

どうかすこやかに成長してくれますようにという会衆の祈りが、



神様に届きますように。

3年ぶりにバザー開催: 11月13日(日)

3年ぶりにバザーが開催され、無事に終了しました。以前よりも1時間短縮し、アルコール類・食べ物を提供しないという自粛した内容になりました。

開始早々雨が降り始め、一時はどしゃ降りになり終了時に雨が止むという天気でしたが、人流が密にならず雨がコロナ対策にもなりました。自粛開催と雨天という状況にもかかわらず他教会や近隣の方の来客もあり、成功のうちに終わったと思います。

雨天や所要のため来られなかった方のためにミニバザーを11月27日(日)に開催いたしました。寄贈して頂いた方、お手伝いいただいた方、ご来場いただいた方、すべの方に感謝いたします。

(地区会)



教会学校 《秋の錬成会》

教会学校では11月5日～6日に「みんなちがってみんないい」というテーマで錬成会を行いました。

このテーマを選んだのは子どもたちがこれから成長していくにつれ、自分とは違う人に沢山出会って行くと思い、その中で相手の違うところも受け止められる人になって欲しいと言う願いが強くあったからです。

最初のプログラムは、自分の特徴、好きな物、苦手なものを

書き出し、一人一人

違うことに気づく、そして次に金子みすゞの詩を読み、「みんなちがってみんないい」の理解を深めました。

一日目の終わりには、「きみはきみらしく」という本を読み、一日を過ごしたまとめとして締めくくりました。

また二日目の最後には、「かみさまのゆめ」という本の朗読を聞きました。そしてかみさまの楽園はどんなところ？ということ想像しながら、一人1色ずつ違う色の絵の具を持って、各班ごとに協力して大きな1枚の絵を書きました。

この錬成会を通して子どもたちには、みんなそれぞれ違うところがいっぱいあるけれど、一人一人が大切な存在であること、周りの人々を大切にしながら、自分自身も大切な存在であることを感じてもらえていれば嬉しいです。私自身も今回初めて取りまとめをし、多少戸惑いながらも進めて行きましたが、成長できた良い機会となりました。

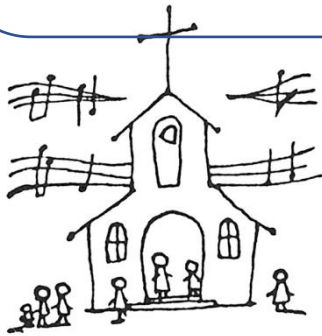
錬成会担当リーダー 川畑 亜弥音(高校2年生)

(写真は、各班ごとに描いた)



♪クリスマス音楽の集い♪

12月18日(日)14時30分開演 六甲教会
主聖堂にて開催します。3年ぶりの「クリスマス
音楽の集い」今回は典礼部音楽チームのメン
バーを中心としたプログラムです。クリスマスも
間近いこの日、歌やバイオリン、オルガンでお
楽しみください。定員200人、事前申し込みは
不要です。(典礼部音楽チーム)



六甲カトリック教会
クリスマス音楽の集い
2022年12月18日(日)
14時30分開演 14時開場
場所 六甲カトリック教会主聖堂
入場無料(祝日200名、申込不要)

■ 参拝のしるし

プログラム
1. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 2. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
3. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 4. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
5. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 6. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
7. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 8. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
9. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 10. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
11. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 12. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
13. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 14. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
15. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 16. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
17. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 18. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
19. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 20. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
21. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 22. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
23. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 24. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
25. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 26. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
27. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 28. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
29. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 30. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
31. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 32. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
33. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 34. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
35. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 36. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
37. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 38. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
39. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 40. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
41. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 42. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
43. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 44. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
45. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 46. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
47. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 48. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
49. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 50. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
51. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 52. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
53. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 54. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
55. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 56. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
57. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 58. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
59. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 60. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
61. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 62. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
63. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 64. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
65. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 66. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
67. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 68. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
69. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 70. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
71. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 72. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
73. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 74. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
75. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 76. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
77. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 78. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
79. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 80. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
81. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 82. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
83. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 84. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
85. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 86. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
87. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 88. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
89. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 90. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
91. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 92. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
93. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 94. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
95. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 96. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
97. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 98. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
99. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 100. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
101. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 102. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
103. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 104. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
105. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 106. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
107. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 108. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
109. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 110. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
111. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 112. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
113. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 114. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
115. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 116. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
117. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 118. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
119. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 120. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
121. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 122. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
123. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 124. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
125. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 126. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
127. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 128. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
129. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 130. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
131. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 132. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
133. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 134. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
135. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 136. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
137. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 138. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
139. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 140. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
141. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 142. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
143. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 144. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
145. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 146. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
147. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 148. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
149. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 150. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
151. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 152. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
153. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 154. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
155. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 156. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
157. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 158. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
159. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 160. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
161. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 162. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
163. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 164. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
165. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 166. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
167. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 168. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
169. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 170. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
171. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 172. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
173. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 174. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
175. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 176. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
177. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 178. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
179. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 180. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
181. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 182. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
183. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 184. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
185. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 186. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
187. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 188. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
189. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 190. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
191. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 192. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
193. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 194. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
195. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 196. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
197. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 198. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)
199. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし) 200. 参拝のしるし(参拝者の参拝のしるし)

主催：六甲カトリック教会
TEL: 078-551-2846 FAX: 078-551-2846
http://www.mito-catholic.jp
〒658-0001 兵庫県神戸市東灘区南端花時計広場、10時～15時(途中退出も可)
お問い合わせ: 060-4100-0000(三線) メール: mtkk@mito-catholic.jp
Facebook: 六甲カトリック教会「新りと音楽の集い」

🎄 社会活動部からのお願いとお知らせ 🕯

★ **緊急!** 寒さが増してきました。野宿者や生活困窮者が以下の物を至急求めています。

毛布、寝袋、タオルケット、敷パット、防寒着、下着は新品のもの、靴下 など

◎ご家庭で眠っている寝具類や、防寒着などがありましたら、12月18日(日)までに聖堂入口の箱にお入れ下さい。

★ 越年越冬の炊き出し

主催:越年越冬実行委員会

炊き出し期間:12月28日(水)～2023年1月4日(日)まで

場所、時間:東遊園地南端花時計広場、10時～15時(途中退出も可)

カトリック社会活動神戸センターの当番日は、12月29日(木)カレーと

1月1日(日)お雑煮です。お手伝いできるかたがいらっしゃると助かります

ボランティアのかたも一緒に食事できます。配食開始は12時半からです。参加できる方は人数把握のため事前に活動センター(Tel. 078-271-3248)までご連絡下さい。



【今月の社会活動部の予定】

12月4日(日) 9時、11時ミサ後

12月5日(月) 9時半

12月7日(水) 10時

12月10日(土) 10時

12月24日(土) 9時半

・ふれあい広場:イグナチオホール喫茶時

・ともしび会:イグナチオホール台所(児童養護施設、信愛学園と愛神愛隣舎にクリスマスデコレーションケーキスポンジだけ10台焼く。)

・手芸の集い:第1第2会議室 手芸のお好きな方なら誰でも。

・炊き出し:中央教会にある社会活動神戸センターの中庭台所

・ともしび会:イグナチオホール台所 5日に焼いたスポンジの上にデコレーションして仕上げる。

「2022 年度 秋の墓参」

快晴の 11 月 6 日(日)、「納骨式」のみではなく、共同墓参を伴った形での「秋の墓参」が、2020 年の秋以来 2 年ぶりに行われました。

教会での様々な活動やその形態が少しずつ以前の状態に戻りつつある中、英神父様が主任司祭として六甲教会に赴任されて最初の「墓参」ということで、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、個人墓地の祝福や共同での墓参を含めた従来型の「墓参」を実施するためには、どのような対策が必要なのかについて、墓地委員会として事前に検討会を行いました。

その結果、多人数が密集する形を極力避けるために、各プログラムの時間帯とその対象者とを分け、ミサの終了時刻や昼食の時間を確保することも考慮して、「墓参」の時間帯を午後に設定することが最初に決まりました。

具体的には、

①「納骨式」:14:00～ 納骨されるご家族のみの参加で、一家族当たり 3 名まで

②「個人墓地の祝福」:14:30～ 参加される方は、各墓地の前で待機

③「既に共同墓地に納められている方々のためのお祈りの会」:15:30～

という 3 部構成とし、いくつかのご協力をお願いする形で実施することになりました。

最初の「納骨式」には 19 組の御家族が参加され、31 名の方の御遺骨が共同墓地へ納められました。続いて行われた「個人墓地の祝福」は 2 年ぶりということもあってか、多くのご家族が各墓地の前で待って下さっていました。最後の「お祈りの会」は今回が初めての実施でしたが、集まって下さった方々のご様子から、この集いを行うことの意義を実感致しました。

このところ共同墓地への納骨を希望される方の増加傾向が続いており、今回は 30 名を超

えて式のスムーズな進行に支障をきたすような事態が散見されました。こうした傾向は今後も続くものと思われまますので、墓地委員会と致しましても、さらなる改善を目指して参ります。

また、「墓参」以外のことにつきましても、墓地委員会の業務につきまして、ご意見やご感想をお持ちの方がおられましたら、ご遠慮なく各墓地委員までお申し出下さい。よろしくお願い致します。

墓地委員会 コーディネーター 鍵山 浩三



クリスマス小話・「四人目の博士」のお話

「三人の博士」には実はもう一人博士がいました。名はアルタバルで医者だったそうです。アルタバルは贈り物の真珠をたずさえて三博士と一緒に出発しましたが途中で何人もの病人に出会い、彼らに手当をしてやっているうちに遅れてしまいました。イエスを求める旅の途中にさまざまな人にであい、それぞれが病気や悩みを

持っているのを見て、そちらに手を取られてしまったのです。イエスが十字架につけられると聞いて、最後の機会とアルタバルは駆けつけますが、またしてもゴルゴタの丘の途中で哀れな女に出会い、彼女を助けるために大切にしていた真珠を手放してしまいます。嘆き悲しむアルタバルにイエスは現れ、優しく声を掛けます。「アルタバルよ、お前は私に会えなかったというが、何度も何度も私に会っているのだよ」。



《本の紹介》

『戦争をやめた人たち・・・1914年のクリスマス休戦・・・』

鈴木まもる 文・絵 あすなろ書房

世界各地の戦場に心砕かれ、一日も早い停戦を祈るなかでこの本に出会いました。

第一次世界大戦中、英独の兵士たちが武器を置き、それぞれの母国語で「Silent Night」を歌い、ともにクリスマスを祝ったという奇跡のような実話があります。それを鈴木まもる氏がシンプルな文章とあたたかく優しい絵で描いています。

ページをめくるたびに この奇跡の素晴らしさに心が熱くなります。さらに「休戦、停戦の実現に向けて“クリスマスの恵み”に希望をもって祈り続けよう！」という気持ちを強めてくれます。こどもからおとなまで、祈りの友として心に寄り添ってくれる一冊としてお勧めします。

「銃弾ではなく歌を。大砲ではなくサッカーを。兵士を変えた、一夜のできごと。戦場でほんとうにあった奇跡のような実話」(本の帯より)

こいずみゆり



今月の聖人 エドモンド キャンピオン

英国でアングリカン・チャーチに抗しカトリックを貫いた司祭です。1540年ロンドン生まれ。1581年12月に処刑され殉教します。宗教改革の影響を受けイングランド国教は揺れまどい、クイーンメリーの時代はカトリックでしたが、クイーンエリザベス(一世)のときにプロテスタント(アングリカン)に移行します。英明なキャンピオンはエリザベスの信望を得て、アングリカン中枢の拠点であるオックスフォードの特別研究員の地位にも就いたのですが、内心では、ひそかにカトリックへの復帰を企図し、オックスフォードからアイルランドに移り、さらにネーデルランドのドゥエーに亡命、ドゥエー神学校に入学し自らの信仰生活を修正しました。その後ローマに赴きイエズス会に入会。キャンピオンは再びイングランドに上陸し、イエズス会の伝道を開始します。しかしイングランドの当局は厳しく、逮捕されたキャンピオンはロンドン塔に幽閉され、尋問と拷問を受けることになります。エリザベスに対しては、イングランドの君主として認めるが、宗教上の地位は認めないと頑なに拒んだため、結局反逆者として処刑されました。中世のキリスト教の歴史は残酷なエピソードに満ちていて読んで心苦しくなります。(詫 洋一 記)



ユスト高山右近の足跡を訪ねて

2016年から続けてきた巡礼の旅。第七回(11月17日～19日)は、コロナ禍で三年ぶりとなりましたが、英神父様と神学生のニティンさんにもご同行いただき、総勢15名で島原半島と長崎を訪れました。

島原半島には、日本にキリスト教が伝わった初期の頃から鎖国に至るまでの歴史が色濃く残っており、かつてはセミナリョやコレジヨなども置かれてキリシタン文化が栄えました。高山右近は、豊臣秀吉に追放されて小豆島に潜伏した後、金沢へ移る前

にこの地を訪れ、イエズス会の修練院で霊操を行っています。彼は生涯で二度の霊操を経験していますが、この時が最初です。二度目はマニラへ追放される直前、長崎の教会トードス・オス・サントス(現春徳寺)で行いました。当時この教会は、迫害が過酷になる中、九州各地の殉教者の遺体や遺骨が運ばれ安置された教会でもありました。ちょうど今年は「元和の大殉教」(1622)から四百年でもあり、右近だけでなく、多くの殉教者のために、訪れた各所で祈りをささげました。

今までの巡礼でもそうでしたが、現地に実際に足を運んではじめて見えてくるものがあると改めてしみじみ感じた旅でした。右近が流され帰天したマニラを訪れる、というのが最終的な目標(野望?)でしたが、現時点では難しく、今回をもって右近巡礼はひとまず完結ということになります。これまでご参加くださった皆様、お祈りで支えてくださった方々にも、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

また新たな巡礼をはじめよう、という声も既にあがっています。その時には再び多くの方と一緒に旅ができますようにと、願っております。(田中雅子)

(写真は島原教会にて中浦ジュリアン像を囲んで。QRコードは神学生ニティンさんの録画・編集による巡礼の記録 https://www.youtube.com/watch?v=FI33mkC_LQE)



シリーズ・社会活動部ボランティアグループ紹介(1) こどもの里

11月13日に開催されたチャリティーバザーでは六甲教会社会活動部の7つのボランティアグループからの出店もあり、信徒会館の2階会議室(第1、第2)は、大いに賑わいました。それぞれのボランティアグループの活動について、今月号から7回にわたってご紹介します。

認定NPO法人・地域包摂こども支援センター「こどもの里」(荘保共子 理事長)は、大阪市西成区釜ヶ崎地区にあります。1977年に聖フランシスコ会「ふるさとの家」の2階の1室を開放し、こどもの遊び場としたところからはじまり、1999年から「カトリック大阪大司教区」が支援事業を引き継ぎました。その後、2015年に活動主体を「NPO団体こどもの里」として新たなスタートを切り、2016年には義務教育後のこどもたちのための『児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)』も開設することが出来ました。同ホームは15～20歳の男子対象でしたが、近年、イエズス会の土地を譲り

受け、新たな施設では1、2階に「旅路の里」が入り、その3、4階を利用して今度は女子のための自立援助ホームを立ち上げることになりました。

六甲教会からは有志が月に一度訪れ、こどもの里の前で開かれる路上バザーで、援助物資(古着寝具タオル他)の販売のお手伝いをしています。詳しく知りたい方は、「こどもの里西成」でネット検索してみてください。



(写真は「こどもの里」の前で古着販売をする六甲教会有志)

フリー刺繍

中 村 節 子



何年も前、ご近所の金子淳子さんの家に遊びに行ったとき、素敵な刺繍の額に目がとまりました。

これは何？フリー刺繍？作りたい！と思いました。基本的なステッチさえおぼつかなかったにもかかわらず、何でも好きなように自由でいいのよと言われ、どうしようと思いつつも、少しずつ作りたいものを作ることになりました。

この刺繍は糸だけでなく布も使うのが特徴です。自由に絵を描くように作品を仕上げていきます。題材をどう仕上げたいか、どんな糸を使うか、どんな布を使うか、何色がいいか、大きさはどれくらいかなど、先生(金子さんのお友達)にアドバイスをいただいて、話しながら決めていきます。家で少しずつ作り、また先生に細かいところを聞きながら、ひとつの作品にしていきます。刺繍の題材も自由、私は絵本の場面をヒントにして作ることが多く、息子が小さい時に読んでいた古い絵本、いろいろな展覧会や外国の絵本や絵画などを題材にして作っています。

先生の家でのお稽古では、何人か一緒に集まってそれぞれ作品を持ち寄っています。それぞれ個性があって誰一人同じものがありません。先生の口ぐせは「まあいいからやってみて！私が責任取るから！」。いくら私が失敗したと思っても、ダメ出しもやり直しもなく、よくないところをそのままに上手に生かしてくださいます。

刺繍を通して、先生や一緒に続いているお友達から多くのことを学んでいるような気がします。今では母のような姉のような、いいことも悪いことも何でも話せる大事な家族のようになりました。刺繍から広がる自由な世界をこれからも楽しんでいきたいと思っています。



私の好きな聖書の言葉

「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる。」

ルカ 23・43



「イエスさまに喜んでいただきたい！」そうハッスルすればするほど、失敗と挫折が重なり、ついには病気になってしまいました。そこでわたしは福音書のなかに救いを求め、出会ったのがこのみ言葉です。十字架上の苦悶のさ中で発せられたこのお言葉に、わたしはイエスさまの歓び輝くみ顔を感じ取りました。これほどまでにイエスさまを喜ばせた人は誰？

そこには“善き罪びと”がいました。それ以来、彼はわたしの最も慕う聖人に。今日も祈りたいと思います。 Jesus, remember me!

アンナ こいずみゆり

イグナチオ・ロヨラの息吹〔7〕（最終回）

イグナチオの息子たち：日本では

中村健三神父

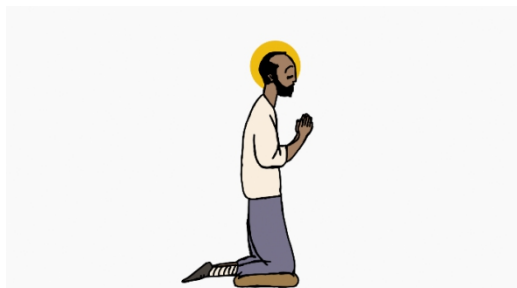
フランシスコ・ザビエルはイグナチオの秘書であったが、病気になったボバディリアの代わりとして、リスボンを船出してゴアに向かった。マラッカで日本人のアンジローに会い、1549年8月15日に長い危険にみちた航海の果てに鹿児島にたどり着いた。ミカドから直々に布教許可を貰う夢は砕かれた。当時は室町末期であったが、京都の公家に政治的な権威は全く無かった。荘園制を打破して、武士・大名が目覚しく台頭する時代、群雄は各地に割拠し戦乱に明け暮れる下剋上の時代であったからである。血なまぐさい殺し合いを経て、織田信長による全国制覇が進みつつあった。ザビエルは通訳を介して、再訪した山口で500人に洗礼を授けたという。日本の文化や生活に中国の影響力が極めて大きいことに気づき、二年余りの日本滞在を切り上げ、中国大陆を前にしながらサンシャン島で雄図（ゆうと）むなしく病没した。しかし彼がヨーロッパに書き送った熱烈な手紙に啓発されて数多くの宣教師が、身の危険を顧みずに日本を目指した。

ヴァリニャーノは巡察師としてローマから派遣され、日本人を司祭に叙階する事をためらわず、また四人の若者を8年の歳月をかけて遣欧使節としてヨーロッパに送り、大きな収穫と驚嘆をもたらした。またフロイスによる大著「日本史」は、当時の国情

や支配者の動静を詳しく活写し、秀吉との多難な交渉の次第を書き残している。1587年に突然のように伴天連追放令が出され、また1614年に徳川幕府はキリシタン禁令を出し、各地で長く厳しい迫害殉教の時代に入った。200年ちかく司祭も不在のまま恐ろしい弾圧に耐えさせたものは、キリシタンの信仰に対する勇猛心によるが、水方・暦方などの世話人たちの献身にも大きく依っている。

ピオ10世教皇の賛同のもと、1908年に専門学校令、また1928年の大学令によって、上智大学はドイツ管区によって専門性を持つ大学として開校された。しかし軍国主義が謳歌・高揚される中、配属将校をめぐって、また靖国神社参拝をめぐって非難や困難に直面した。また第二次世界大戦が終わる直前には、広島で原爆の惨禍を身近に体験した会員もいた。戦後は東京・山口・六甲・祇園(広島)に教会を開き、また1938年に六甲学院が始まり、栄光、広島、泰星の4校となった。さらに黙想の家や学生寮や各種のセンターも加わった。

しかし今や、成長や発展の後に減退の時を迎えている。2008年のイエズス会会員数は246人であるが、2020年には179人であり、現在ではさらに15人を永遠の住処に見送った。いかに仕事や事業を減らすかに真剣に取り組んでいるのが現状である。イエズス会は何を最優先課題にするのかが問われている。



【2022 年 12 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
					初金曜日ミサ 7:00、10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後	大掃除 9:00 地区役員会(大掃除 終了後に) 宣教・養成部講演会 14:00～15:30
4	5	6	7	8	9	10
待降節第2主日 宣教地召命促進 の日(献金) ・手話ミサ※				無原罪の聖 マリアミサ ロザリオの 祈り 10:00 (六甲教会創 立記念日)		社会活動部炊き出 し
11	12	13	14	15	16	17
待降節第3主日 小教区評議会 ◎日曜班						教会学校クリスマ ス会、終業式 (大掃除予備日)
18	19	20	21	22	23	24
待降節第4主日 クリスマス音楽 の集い 14:00					◎灘北2・阪神	主の降誕(夜半ミサ) 15:00、16:30、18: 00、19:30、21:00
25	26	27	28	29	30	31
主の降誕 7:30、 9:00、11:00 (11時は手話付き)	聖ステフ ァノ殉教 者	聖ヨハネ 使徒福音 記者	幼子殉教 者		聖家族	神の母聖マリアミ サ 23:00 ミサ後 のカウントダウン

◎は掃除当番地区です。11月より変更になっているので、ご注意ください。

※第1日曜日の11時ミサは「手話ミサ」ですが、1月は元旦に当たるため、お休みになります。

= 広報部から =

教会報の編集、制作をご一緒にやってみませんか？ ワード操作が出来ればどなたでも出来ます。興味のある方は事務所を通じてお申し出下さい。(広報部コーディネータ 詫 洋一)

◎今月号の「教会のご近所訪問」は休載しました。

次回 1 月号の発行は 12 月 24 日(土)です。 原稿は毎月 15 日ごろまでに教会受付へ直接ご持 参いただくか、FAX やメールでお願いいたしま す。皆様からの原稿をお待ちしています。 あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部 E メール renraku@rokko-catholic.jp	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英隆一朗 編 集 広 報 部
---	--